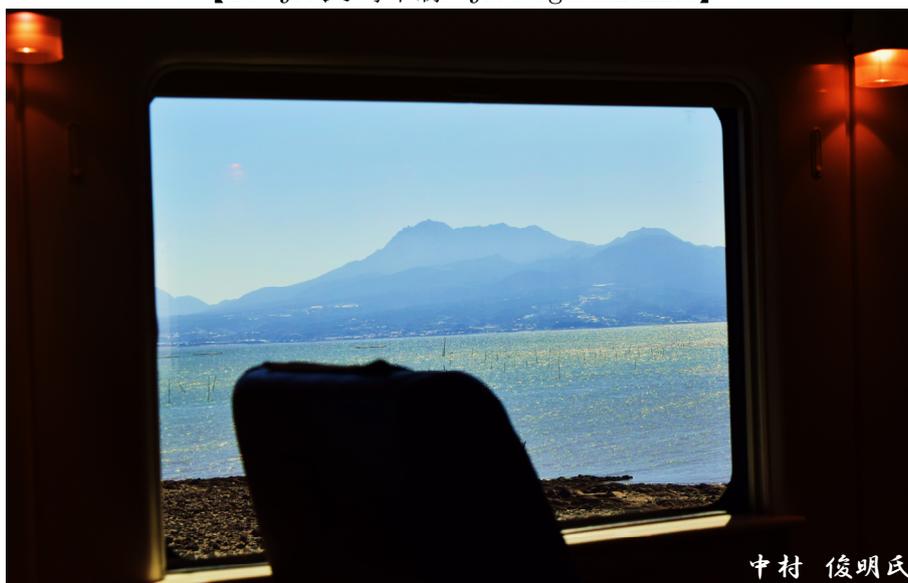


【13 JR 長崎本線 JR Nagasaki Line】



中村 俊明氏

小長井駅付近の特急かもめから

JR 長崎本線では、鳥栖駅～長崎駅の区間のうち、南側(海側)が開けたところからは、平野越しに“[北面～北西面の雲仙岳](#)”が眺望できます。具体的には、小長井駅～肥前長田駅の区間では、高い確率で有明海越しに雲仙岳が大きく見えます(↑)。空気がよく澄んでいる日には、佐賀駅～肥前鹿島駅の区間においても、佐賀平野の奥に雲仙岳が断続的に姿を現します。その他、列車は太良(たら)町内の“道の駅太良”のすぐ脇を走行しますが、そこからは道の駅・有明海の干潟越しに雲仙岳が眺められます(↓)。

JR 長崎本線の路線を走る観光列車には、“特急かもめ”(博多駅～鳥栖駅～長崎駅)や“特急みどり”(博多駅～鳥栖駅～肥前山口駅～佐世保駅)、“特急ハウステンボス”(博多駅～鳥栖駅～肥前山口駅～ハウステンボス駅)のほか、九州を周遊する“クルーズトレインななつ星”などがあり、これらの列車からも、空気が澄んでいれば、雲仙岳の眺望を楽しむことができます。また、秋の佐賀国際バルーンフェスタの開催時期に運行される“臨時快速バルーンフェスタ号”(鳥栖駅～バルーンさが駅～肥前山口駅)からも同様に眺望できますが、フェスタの会場内からはバルーンとともに雲仙岳を眺めることが可能です。

佐賀駅～肥前白石駅の間で横断する嘉瀬川・六角川の水は、佐賀平野を潤しながらやがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を嘉瀬川・六角川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

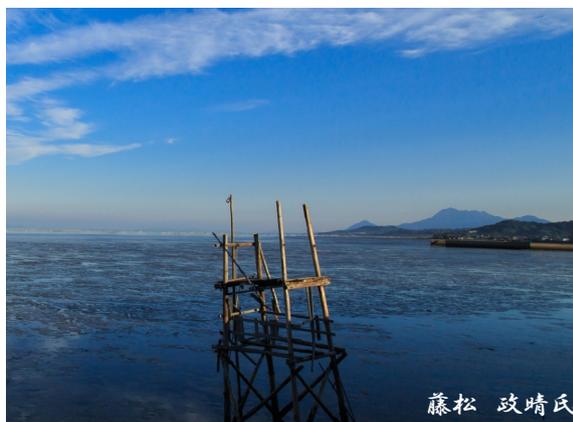
雲仙岳の様々な表情を探しながら、JR 長崎本線で旅してみませんか？

●JR 長崎本線の情報はこちら↓

JR 九州(九州旅客鉄道株式会社) http://www.jrkyushu-timetable.jp/jr-k_time/r_nagasaki.html



特急かもめ



藤松 政晴氏

道の駅太良から(漁具の棚じぶ越しに)